

雲の上にはいつも...

【No.18】藤城小学校 校長室より（不定期刊）

☆ 今回は子どもたちへのプレゼント（？）号です！

先週、ようやく修学旅行に出かけることができた。6年生の子どもたちにとっては「待ちに待った（待たされた？）」2日間だったろう。大いに楽しみ、思い出に残ったならば嬉しい。藤城小学校最後の1年間が規制や中止ばかりとなった、今年の6年生。最後の最後に、大学生の卒業旅行のような1泊2日を体験できてよかったです。

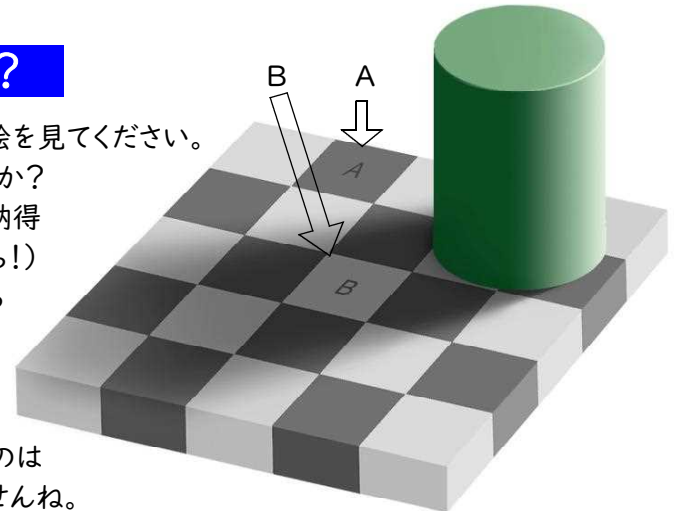
さて、旅行中の「掲示板（毎朝の校長からのメッセージのこと）」に、下の絵のことを載（の）せたんですが、ある担任の先生から納得できない人がいると聞きました。校長に騙（だま）されたと思われるでは癪（しゃく）なので、印刷でモノクロにはなるのですが、全員に配布させていただきます。

「今 見えている」ものは、本当にそうなの？

白とグレーのチェックの板の上に円柱が載（の）っている右の絵を見てください。少し見づらいかもかもしれませんが、AとBではどちらが白いでしょうか？「AとBは同じ色だよ」ってみなさんに見せたのですが、どうやら納得できなかったようです。（気持ちはわかりますよ。ボクも同じだから！）

私たち人間の脳は、目から入ってきた情報をそのまま処理するのではなく、今までの体験や常識を勝手に付け加えながら「見て」しまいます。つまり、影の部分でも白は白だと...

だから、今あなたに見えているものが本当にそうなのかはわからないんです。そんな脳の働きを考えると、私たちに必要なのは「疑いようのないものを、あえて疑ってみること」なのかもしれませんね。



竹内龍人「イリュージョン フォーラム」より

☆ それでは、問題です！みんなが納得できるように、AとBが同じ色だということを証明してください。

せっかくなので、もうすこし。右の「図-①」を見てほしい。指示としては『左を見よ』とありますが、矢印がもっている不思議な力に引きずられて「右」を見てしまった人が多いのではないのでしょうか？ 続いて下の「図-②」を見てみましょう。「ふん、正11角形か。それが何か？」と思ったあなた。よく見てみよう。何と、頂点の数は2つも少ないんだよ。実はこの図、正9角形なんだ！ う～ん、私たちの多くが、なぜ右を見てしまうのか？ なぜ、正11角形だと信じてしまったのか・・・？（図-①と②は 佐藤雅彦「毎月新聞」より）

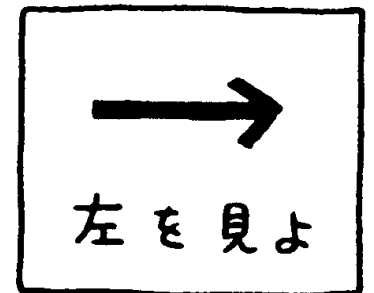


図-①

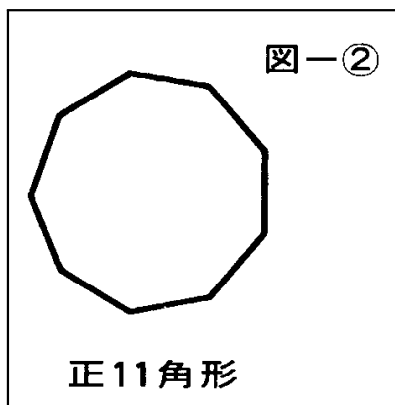


図-②

正11角形

誰かから「ん？これは正9角形だぞ！」と指摘されない限り、まちがいに気づかない私たち。どうも私たちは、「より楽な情報」を選んでしまうようです。『左を見よ』を読むより『→（矢印）』を見たほうが楽ちんだ。多角形の図形の角を数えるよりも、下に書いてある『正11角形』を読んだほうが圧倒的に早い。しかし、これはとても怖いことではないだろうか。自分ひとりでものごとを考えていると、まちがったまま進んでいくことになってしまうぞ！ じゃあ、いったいどうすればいいのだろう・・・？

「他人の意見を聴（き）く」・「自分の意見を述べる」

以前、コミュニケーションというと「話す」ことばかりが重要視されてきました（今でも、その傾向はある。残念！）。しかし、仲間とそれぞれの考えを交流させるときにいちばん大切なのは、話すことよりも「聞く（聴く）」ことなのです。他者の言葉から多くのことを吸収し、それらの考えと擦（す）り合わせながら自分の考えを見つけていこうとする。そういう子どもは、たくさんを学んでいます。「学びあう」とは、そういうことです。豊かな学びは、他者の考えを受け取る「聴く耳」から生まれます。つまり、コミュニケーションの土台は「聴くこと」。そう、だからよく学ぶ子どもは、よく聴く子どもだということになります。みんな、よく聴いているかな？